



2026年1月26日

報道関係者各位

慶應義塾大学

## 慶應義塾大学 X Dignity センターが 「AI 時代の報道機関のあり方に関する提言」を公表 一人間の尊厳が維持される民主主義社会の実現に向けて—

慶應義塾大学 X Dignity センターは、健全で闊達な情報空間の実現を目的とするプロジェクトの一環として、「AI 時代の報道機関のあり方に関する提言」を公表します。

近年、AI やアルゴリズムを基盤とする情報流通の拡大や生成 AI の普及により、アテンション（注目・関心）を反射的に向けてしまうような刺激的な偽・誤情報や誹謗中傷の拡散・増幅、「もっともらしい情報」や動画の流通が進むなど、情報空間の変質が進んでいます。こうした変化は、民主主義の前提である選挙のあり方や個人の知る自由、人間の尊厳にも根源的に影響していると考えられます。

X Dignity センターは、デジタル化および AI の利活用を前提とした情報流通の仕組み・構造の再検討を通じて、今一度、報道機関の意義を問い合わせました。民主主義の根幹となる総選挙が 1 月 27 日に公示されます。報道の果たすべき役割が一層大きくなる時だからこそ、私たちは選挙直前の今、提言します。

### 1. 本提言の背景

人工知能（AI）は私たちの日常に浸透しつつあり、多くの恩恵をもたらしています。しかし、情報空間や言論空間において、AI の進化・発展・普及は手放して歓迎できるものではありません。AI・アルゴリズムは、人々のアテンション（注目・関心）を獲得しエンゲージメントを最大化することを目的として設計されており、刺激的な偽・誤情報や誹謗中傷が拡散・増幅されやすくなっています。さらには、生成 AI の普及により、誰もが「もっともらしく見える」情報や動画を容易に作成・流通できるようになり、情報空間の変質は一層深刻化しています。

このような状況は、事実に基づく理性的なコミュニケーションを前提とする民主主義の基盤に影響を及ぼす可能性があります。こうした危機を回避するためには、取材・検証に基づき、専門的な倫理基準に基づいて情報を提供する報道機関の役割が極めて重要です。

本提言では、人間の尊厳が維持される民主主義社会の実現を強く希求し、報道機関が民主主義の守り手として機能し続けるために、AI 時代における報道機関のあり方について提案します。

### 2. 本提言の概要

上記背景を踏まえて、以下について提言を行います。

- 第 1 報道機関の機能・役割の確認
- 第 2 アテンション・エコノミーとの適切な距離とガバナンス体制の確保
- 第 3 透明性および説明責任の一層の確保
- 第 4 AI 時代の報道倫理と運用指針の整備
- 第 5 AI 時代における報道機関の監視対象の再検討
- 第 6 選挙時・災害時など、公共性が特に求められる特定期間における機能強化
- 第 7 啓発活動への主体的関与

## ■慶應義塾大学 X Dignity センターとは

慶應義塾大学は、21世紀における「尊厳（dignity）」の再定義を目指し、新たな領域横断研究の拠点として、2024年にX Dignityセンターを設立しました。牛場潤一（理工学部教授）、大久保健晴（法学部教授）、徳永聰子（文学部教授）、山本龍彦（法務研究科教授）の共同代表により設立された当センターでは、様々な学問領域の重層的な連携、産業界や一般社会との交差（クロス）を通じて、21世紀における「尊厳」をめぐる倫理的価値を考究し、その成果を世界へと発信しています。



※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは、文部科学記者会、総務省記者クラブ、各社社会・教育部等に送信させていただいております。

---

・研究内容についてのお問い合わせ先

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センター  
E-mail : x-dignity-group@keio.jp <https://www.x-dignity.kgri.keio.ac.jp/>

・本リリースの配信元

慶應義塾広報室 担当：道祖士（さいど）  
TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640  
E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>